

ラファエル・カプーロ

Rafael Capurro



略歴

1945年、ウルグアイのモンテヴィデオ市に生まれる。

1970年、サルヴァドル大学(アルゼンチン、ブエノスアイレス)にて哲学修士学位取得。

1972-73年、核エネルギードキュメンテーションセンター（ドイツ、カールスルーエ）研究員。

1973年、ドキュメンテーションスクール（ドイツ、フランクフルト・アム・マイン）卒業。

1978年、デュッセルドルフ大学（ドイツ）より哲学博士学位取得。博士論文：『情報』。

1980-85年、カールスルーエ専門情報センター勤務。

1986-2009年より、シュトゥットガルト・メディア大学教授（情報学、情報倫理学担当）。

1989年、シュトゥットガルト大学より教授資格（倫理学・実践哲学）取得。

教授資格論文：『専門情報の解釈学』。

1989-2004年、シュトゥットガルト大学哲学研究所私講師。

2001-2004; 2005-2009年、欧州科学新技術倫理グループ(EGE)委員。

2005-2008年、ザルツブルク大学先端情報通信技術・社会研究センター国際諮問委員。

2007-2008 / 2009-2010年、米国ウイスコンシン大学ミルウォーキー校情報政策研究センター特別研究員。

2008- シュタインバイス・トランスファー・情報倫理研究所所長（ Director of Steinbeis-Transfer-Institute Information Ethics (STI-IE)

国際情報倫理学センター(ICIE)設立者。

世界技術ネットワーク(WTN) 創設メンバー。

International Review of Information Ethics (IRIE) 編集長 (2004-)。

NanoEthics. Ethics for Technologies that converge at the nanoscale 編集委員

(編集長: John Weckert) (2006-)

教育 及び 研究

情報学(Information Science) ロボット倫理(Robot and Ethics)

情報倫理学(Information Ethics) 情報マネジメント(Information Management)

メディア哲学(Philosophy of Media) 解釈学(Hermeneutics) 生命倫理(Bioethics)

講演の内容

1. ロボット倫理とはなにか。ヨーロッパやアメリカでの議論をふまえ、日本で今後どのような問題が現れてくるか考える
2. なぜロボット倫理が問題になるのか。1)ロボットはルールに従う。2)しかし、そのルールをつくり、プログラムとしてロボットに組み込むのは人間である。3)人間にはそのルールを作るという点で責任がある。4)しかし、ロボットには「自律性」が求められる。「自律性」とは、さまざまな場面で（あるいはある特定の場面でロボット自身がそれをするかどうか決定することである。5) ここで、人間—ロボットのモラル上のジレンマが生じる。
3. ロボットと人間の相互作用はわれわれの社会にどのような変化や問題をもたらすのか。1)ロボットに子供や老人の世話をさせることの問題。2)ロボットの利用で、労働力不足の問題（日本）を解決できるか。ロボットを利用することで時間に余裕がで、人間はより重要な仕事をすることができるという考え。「しかし、より重要な仕事とはなにか。」
4. 日本独自のロボット倫理が必要なのか、可能なのか？
5. 欧米では、ロボット倫理に関してさまざまな対立する意見があるが、その背景には何があるのか。戦争ロボットをめぐる論争。ロボットは心をもつのかどうか。また、心をもたないロボットは倫理的な配慮の対象になるのか、意識をもたない「環境」はど

うか、「昏睡患者」はどうか。その他。

以下のサイトで講演で使用するパワーポイントをあらかじめ見ることが可能です。(Robot Night Café)

<http://www.capurro.de/home-eng.html>